

会 報

東北大学教育学部同窓会仙台支部

2006年の東北大学

教育学部同窓会会長（教育学研究科長） 荒 井 克 弘

雨に濡れた紫陽花を楽しんでいたのもつかの間、梅雨の晴れ間に射し込む眩しい日射しに初夏を感じる頃となりました。会員の皆様にはお元気でご活躍のことと存じます。この会報がお手元に届く頃には、もう夏も真っ盛りを迎えている頃でしょう。

東北大学はいよいよ来年で百周年を迎えます。去る6月22日には“東北大学 Pre-Centenary イベント”と銘打った記念行事とパーティが催されました。白地に大胆に東北大学百周年記念とペイントした市営バスが、これから一年間市内を走ることです。その宣伝バスの発進式のテープカットが行われ、百周年記念のロゴマーク入りの垂れ幕が本部玄関前に降ろされました。百周年を記念する各種の活動は来年の8月27日の記念式典に向けていよいよカウントダウンに入りましたが、同窓会の皆様にはこれまでも様々な記念行事へのご参加や、記念募金などにご協力を頂きました。厚く御礼申し上げます。

教育学部でも百周年の記念事業として、昨年の秋と今年の春先に2つの国際シンポジウムを開催しました。ひとつが「東北大学の学問風土」と題する国際シンポジウムです。中国、台湾、韓国から、東北大学大学院を修了して、それぞれの母国で活躍している研究者をお招きし、アジアから見た東北大学を「学問的な伝統と風土」の観点から論じていただきました。教育学研究科からはアジアの高等教育を専門とする小川佳万助教授に総括報告をしてもらい、喝采を浴びました。この研究は菊池前研究科長時代にはじまったものですが、今年も総長裁量経費による助成をいただき研究プ

ロジェクトが継続します。今年の3月に催したのは「グローバル化の時代における新しい人間像と教養教育の創造」と題した国際シンポジウムです。アメリカ、イギリスから3名の高名な哲学者、教育学者をお招きし、急速にグローバル化が進む現代社会と高等教育における新たな教養教育の可能性をテーマにして報告と活発なディスカッションが行われました。本研究科の哲学担当の加藤守通教授が司会進行、総括を務め、鋭いコメントやリプライの応酬が印象に残りました。

百周年を記念する2007年がこうして徐々に近づいてきますが、現職の教職員にとりましては、2006年は別の大きな宿題を抱えた年でもあります。2007年は東北大学が大学としての「認証評価」を受ける年であり、また法人化してからはじめて中期計画全体の成果を法人評価委員会に提出する年でもあります。大学創設以来、いわばはじめての「評価」です。データベースの入力、整理、根拠資料の割り出しなど、なかなか厄介な仕事が残っていますが、部局一丸となって準備にあたりたいと考えています。

さて、最後にお知らせをひとつ申し上げます。教育学部同窓会のホームページ (<http://www.sed.tohoku.ac.jp/alumni.html>)を7月初旬に立ち上げました。まだ中身は整っていませんが、同窓会のお知らせや会員の交流の場としてご利用いただけたらと存じます。現在、教育学部のホームページからアクセスできますが、近々、東北大学の同窓会ホームページからもアクセスできるようになります。お試してください。

第10号の発行を迎えて

支部長 関口 隆 (37年入学)

会報第1号が発行され、今回第10号の発行を迎える。その間の支部並びに教育学部との歩みについて記しておきたい。

平成7年度仙台同窓会支部総会を前に支部の健全な運営のために、会員各位から会費の協力を頂く議案について、役員会で白熱した議論がなされた。その折、昨年亡くなられた三浦顧問様から、支部会報の発行の強い要望があった。翌年、名簿・会則・会報・会計の各委員会を発足させ、平成9年に第1号が発行をみた。以来第9号まで、会報作成委員各位のアイディアあふれる紙面構成と、ご寄稿頂いた各位のご協力により、年々その内容の充実感謝している。

さて、6月17日の顧問会の席で、仙台支部の草創期から現在に至るまでを知る機会を与えて頂くことができた。教育学部同窓会会則は、昭和28年4月施行され、同仙台支部会則は、昭和59年11月に施行された。その後、共に数回の改訂がなされて現在に至っている。教育学部同窓会支部は、東京・札幌にもある。

教育学部と仙台支部との関係は、学部創設50周年以降、相互に情報を共有し、協力を密にしている。例えば、支部の役員会に、教育学部長は欠かさずご参加下さり、学部の取組みや大学の最新の情報を示され、また、学部主催の講演会やシンポジウム等へは支部会員にも開放して下さっている。

平成14年度、植物園ロータリーの近くに11階建の教育学部単独の研究棟が完成して以降、仙台支部の総会等は最上階の市内を一望できる大会議室・中会議室で開催をさせて頂いている。

さて、来年度は、大学創立100周年である。支部運営の課題等は、支部役員各位と学部の絶大なご協力により解決・発展を期待している。

学部同窓会のホームページも立ち上がり、会員各位と支部・学部が身近に感じて頂けるようになる。

煎茶道を学んで

多田 昭子 (26年入学)

40の手習いとして煎茶道を学ぶようになったのは前任校の先生たちとの交流が楽しみという安易な気持ちからであった。土曜日の午後、おけいこに通ったが「継続は力」という家元の言葉に励まされたことと、お茶の世界に魅せられたことが今まで続いたのだと思っている。

「お煎茶にもお点前があるの」という人が多いが、全国煎茶道連盟に加入している流派が40近くあり、未加入を含めるとかなりの流派があると思う。

江戸時代から明治にかけて盛んで、かなりの著名人たちが煎茶を嗜んでいたらしい。以前、博物館で伊藤博文や井上馨が愛用していた宜光ぎこうの急須しゆくが仕覆と共に陳列されているのを見て驚いたことがある。

おいしいお茶を淹れる、ただそれだけの事なのだが、水の良否、湯の適温、適量のお茶、時間、季節の違いによる微妙な変化を体で覚えると言われる。お茶の種類により点前も違い、点前の緩急もある。一点前ひと30分から40分かかかるが無心で点前をするように言われるが、それがなかなかできず雑念が入るとまちがえる。同じお茶なのに点前をする人によって微妙に味が違い、本当に不思議なことだと思う。

先年、友人の中国料理研究会が主催する「焼き物とお茶の旅」に参加し、中国の新茶の季節に璧へき螺春らしゅん、龍井茶ろんじんちゃ、黄山毛峰こうざんもうほうの緑茶と祁門紅茶きもんの産地を訪れ、また宜光ぎこう、景德鎮けいとくちんの焼き物の工房を見学し、煎茶に使えるような茶器を求めてきた。

私の習っているのは織田流煎茶道で、織田信長の弟 織田有楽斎を茶祖としている。ここ数年、京都正伝院で行われる有楽忌に参列し、法要のあと抹茶有楽流の茶席に入り、有楽流の方たちとの交流も始まった。煎茶を学ぶことによってお茶の歴史、焼き物、書画、茶器のことなど広い世界に触れることができる幸せを感謝している。

最後の入学生の定年

大竹 牧夫 (39年入学)

ついにと言うべきか、いよいよと言うべきか、我々16期生(39p)が、この春定年を迎えました。

16期生、東北大学教育学部教員養成課程の最後の入学生です。

昭和39年春、大学の校門をくぐり、しばらくして聞かされた話は、来年度宮城学芸大学(当時の呼称)開校の話。僕にとっては青天の霹靂の話で、すぐに高校の担任の先生に事情を話し、そうした情報を伝えてくれなかった事に遠回しながら軽い恨み言を言ったことを覚えています。

それでも自分のノンポリの体質は変わることなく、時折“宮学闘争”に参加はしたものの、部活動を中心に仲間と学生生活を楽しんでいました。

特に教養部を終え研究室に入り、田邊健一、長谷川典夫先生を囲んでインスタントラーメンをすすりながら談笑したり、サークル前の広場でキャッチボールをしたりとその頃の思い出は尽きないものがあります。その田邊先生も亡くなりましたが、7月には恒例の長谷川先生を囲む会を開き旧交を温めました。

3月まで勤めた教育現場も、大きく様変わりしています。本年度から試行も含め、人事考課制度がスタートします。加えて不審者対策、危機管理と授業以前の課題が山積している中、現場の先生方の心身両面のストレスは年々増加しています。“巢立った”我々の教育現場サポートの在り方の再検討が必要なのかも知れません。

現在榴岡公園内にある、仙台市歴史民俗資料館に勤務しております。仙台市内在住で65歳以上の方は無料です。6月末から始まる企画展「食卓のある風景」等多くの企画・イベントを予定しております。ホームページもあります。散歩がてらご来館いただければ幸いです。今公園の緑が広い芝生を囲んでとてもきれいです。

みだりに人の師となるべからず

安住 裕 (41年入学)

先日、本校に5名の教育実習生が実習に来た。目がきらきらと輝き、挨拶もはきはきとしていて実に気持ち良かった。

校長講話のとき、私は次のことを彼らに話した。「教師は、法律と数学に強くなること。社会人として必要な法的知識を持った常識人、そして数字で納得させる必要な結果やデータで説明できることが信頼につながる」「創造力なき教師は、生徒に想像力や創造力を育成できず」「純真な子どもたちの教育にあたっては、ペスタロッチのような教育愛とカウンセリングマインドが大切」等。

30数年前の教育学部の教育行政専攻の講義の中で、皇教授、岩下教授、前原教授が常に話していたことを今話している自分に「教育の不易と流行」を感じ、教育の難しさを実感している毎日である。

不易と流行

別府 成裕 (50年入学)

昭和54年大学を卒業し、中学校の教員になって27年。現在校は7校目になる。この間様々な環境でたくさんの経験をさせていただいた。一年一年、毎日毎日、あまりにも多くのことがあったため、振り返ってみるとあまりに茫漠としていて、抽象的な表現しかできないことにもどかしささえ感じるが、この間、恩師、先輩、上司、同僚、生徒たち、そして保護者、地域の方々、たくさんの人々との貴重な出会いがあった。少しでもまじな授業をしたい、もう少しわけのわかる教師になりたい、いつもそう思い、悩みながら27年経ってしまった。

今、次々と改革の方向が示される中、現場は対応に追われている。しかし改革の根本的なところを見てみれば、昔大学で聞いた講義とぴったりと符合するところが多いのはなぜだろう。不易と流行、当たり前といえば当たり前だが、変化の激しい時代ほど基本が重要になってくるのだろう。

仙台支部役員名簿

(平成17.7.2~平成19.11.30)

顧問	藤井 黎	25多田 滋
"	26佐々木一洋	28永野 昌一
"	31雪江 美久	
支部長	37関口 隆	
副支部長	36阿部 琢也	36岡崎 忠
"	39軍司 啓	
参与	24岩淵昌次郎	24富塚 英雄
"	24志村 元一	29石森 幸子
"	31柘澤 怜	32佐々木亀三男
"	33佐藤 健仁	
理事	24川井 善夫	24丸谷慶二郎
"	25高橋 公正	25菊池 康雄
"	25静田 一	
"	26池田 和夫	26三橋 亮一
"	27岡崎 忠	27青木 敏浩
"	28小關 幸生	28古澤 良一
"	29青木 寛敏	29星 博
"	30小野 正義	30小畑 博之
"	31榎 要照	31今野 健
"	31菅原 教雄	
"	32久保田 明	32砂金 信男
"	33小高 幸子	33金岡 昭房
"	34伊藤 静男	34河野 好郎
"	35泉 豊	35岡本 幸子
"	36正木 競	
"	37菊田 泰丸	37小倉 英樹
"	38熊谷 洋	38櫻井 正幸
"	39渡邊 宣隆	39菊地 光輝
"	41安住 裕	48桜田 博
"	50別府 成裕	51日下 毅
"	52吉川 邦彦	54南城 一之
"	57川上 芳夫	H4吉植 庄栄
監事	25佐藤 寿郎	48宮腰 英一
大学関係理事	舩渡部 信一	52熊井 正之
理事事務局	35伊藤 昭	39大浪 榮一
会計	35阿部 孝子	
"	37佐藤 勝美	37佐藤 勝子

事務局だより

会員の皆様には、日頃多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。

下記のように委員会を構成し、それぞれ活動を展開しております。

会則検討委員会

委員長 31柘澤 怜 副委員長 31今野 健
委員 25静田 一 28古澤 良一
37菊田 泰丸

名簿作成委員会

委員長 33金岡 昭房 副委員長 35泉 豊
委員 25高橋 公正 29青木 寛敏
31菅原 教雄

会報発行委員会

委員長 25菊池 康雄 副委員長 32佐々木亀三男
委員 26池田 和夫 27青木 敏浩
32久保田 明

会計委員会

委員長 29石森 幸子 副委員長 37佐藤 勝美
委員 35阿部 孝子 37佐藤 勝子

東北大学創立百周年記念事業推進実行委員会(仙台支部関係)

実行副委員長 37関口 隆

常任実行委員 25多田 滋

推進実行委員オピニオンリーダー

25多田 滋 25高橋 公正
27青木 敏浩 28永野 昌一
28小關 幸生 31柘澤 怜
37関口 隆
推進実行委員 28木村 力雄 30小金澤紀光
33佐藤 健仁 36正木 競
39松田 尚嗣 39大浪 榮一

- 会報10号をお届けいたします。ご多用の中、ご執筆いただきました皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。
- 会報につきまして、皆様方からのご意見、ご希望、ご寄稿等を下記事務局(連絡先)にお寄せいただければ幸いに存じます。

事務局(連絡先)

〒982-0816 仙台市太白区山田本町20-10
伊藤 昭 TEL 244-1830
〒981-3215 仙台市泉区北中山1-3-3
大浪 榮一 TEL 376-6764